

平成7年5月10日第3種郵便物承認 令和8年1月20日発行(毎月20日25日30日発行) O D A通巻 第1660号



# ODA



はっこう しゃかいふく しほうじん おきなわけんしんたいしおうがいしやふく しきょうかい へんしゅう ほくぶじりつせいかつせ んた 一 きらら  
発行: 社会福祉法人 沖縄県身体障害者福祉協会/編集: 北部自立生活センター 希輝々

おきなわけんなんごしおのみなみ はんか えん かいひ ふく  
〒905-0015 沖縄県名護市大南4-8-32-1/ 領価100円 (会費に含む)

TEL/FAX: 0980-54-1559 e-mail: kirara20030501@yahoo.co.jp



ほくぶじりつせいかつせ んた 一 きらら  
**北部自立生活センター希輝々**

# やんばらあ～ねっと

2026年1月62号



## もくじ

やんばらあ～ねっと 第62号

P2

もくじ

P3～P6

JICA沖縄コロンビア研修生受け入れ

P7～P8

ダスキン研修生受け入れ

P9

小学校体験学習報告（学びを支える現場から）

P10～11

利用者さん・スタッフの新年の抱負

P12

新年の抱負／希輝々の所在地案内／

正会員、賛助会員の入会について

謹んで  
新春のお慶びと  
申上げます



スタッフ一同

## ころんびあけんしゅういん JICAコロンビア研修員

# こつきょう こまなじりつせいかつ 国境を越えて学ぶ、自立生活のかたち

さがつにちがつにち きかん おきなわ ころんびあくにべつけんしゅう じょう  
去った11月16日から12月6日までの期間、JICA沖縄コロンビア国別研修「障がい

ふんそうひがいしゃ じりつせいかつそくしんのうりょくきょうか こうぎ じっしゅう きかい  
のある紛争被害者のための自立生活促進能力強化」において、講義と実習の機会を

たまわきちょうまなじかん けんしゅういんめいみな じりつせいかつ  
賜り、とても貴重な学びの時間となりました。研修員11名の皆さまが、自立生活や

けんりょうごりねんしんしむあ まなぼこくげんばもかえ すがた  
権利擁護の理念に真摯に向き合い、その学びを母国の現場へ持ち帰ろうとされる姿

じしんおおしげきゆうき ほんけんしゅうふんそうさいはつ  
に、私自身も大きな刺激と勇気をいただきました。あわせて、本研修は、紛争の再発

ふせだれあんしんくへいわこくつくひつようせい つうやくたんとう  
を防ぎ、誰もが安心して暮らせる平和な国を作る必要性にもつながっていくことだ

かん  
と感じました。

けんしゅうながいともけんしゅうとくきかい きょうけいけん  
研修では、長位さんと共に研修に取り組む機会をいただき、貴重な経験をする

ことうれかん つうやくたんとう  
ことができた事を、とても嬉しく感じております。そして、通訳を担当してくださつ

いのはさんかしやみなおもことばていねいかくにんくと  
た伊野波さんが、参加者の皆さまの思いと言葉を丁寧に確認しながら汲み取り、たく

わたしとど  
さんのことを私たちに届けてくださったこと

こころかんしや  
にも、心より感謝しています。

とうせんた一きららかつどうじょうかい  
当センター(希輝々)の活動紹介では、CILの

やくわりとうじしやしゅたいうんどういぎ つた  
役割や当事者主体の運動の意義についてお伝

とくじりつせいかつ  
えさせていただきました。特に、自立生活



けんしゅうちゅう ようす  
研修中の様子

体験室においては、24時間介助や地域で暮らすための具体的な支援の在り方について、実際の生活環境に近い形で体験している当事者の暮らしを見学しながら意見交換をしました。制度の説明だけではなく、「暮らしのリアリティ」に直接触れていただけたことは、本研修における大きな成果であったと感じております。

介助実習では、介助のエチケットやコミュニケーションの基本、移乗動作、社会参加（買い物）に加えて、車椅子体験もおこないました。実際に操作を体験することで、段差や傾斜、狭い通路などで感じる不安や負担を理解し、利用者の立場に立った支援の在り方や、共生社会の実現に向けたインフラ整備・ユニバーサルデザインの重要性について、学びました。これは、現場で活用できる実践的な内容でもあり、介助は単なる技術だけではなく、障がいの有無にかかわらず互いを尊重し、尊厳と信頼関係を当事者に寄り添った関わりを大切にする事を、共有できたと思います。



そして、公開講座形式で実施したピア・カウンセリングでは、互いの経験を分かち合

い、素直な気持ちに耳を傾ける貴重な時間を共に過ごすことができました。

皆さまが、ご自身の人生の歩みを言葉にし、ときに涙を流しながらも前向きに語ら

れる姿に触れるとともに、場面によっては皆で大いに笑い合う時間もあり、涙と笑

いの両方を共有できたことが心に残りました。こうした瞬間一つひとつが、ピア

の持つ力の大きさに改めて実感する機会となりました。

今回の研修を通して得られた対話や気づき、そして皆さまが策定された

アクションプランが、コロンビアの地域社会において活かされ、障がいのある紛争

被害者の方々の自立と尊厳ある暮らしへつながっていくことを、心より願い、

今後も応援していきたいと思います。

M.A より

ひだり  
**左から**

えんぱわめんとおきなわ  
**エンパワメント沖縄**

りじちょうたかみね  
**理事長の高嶺さん**

りじながい  
**理事の長位さん**

つうやくいのは  
**通訳の伊野波さん**

きららあらかき  
**希輝々の新垣さん**





うえ たいけんしつ けんがく  
上：体験室の見学 下：研修関係者集合写真



# だすきんけんしゅうせいほーむすてい ダスキン研修生ホームステイ

もんごるこつき  
モンゴル国旗



12月25日～31日の一週間、モンゴルから来日したニヤムカさんとサンくんをホームステイでお迎えしました。海洋博公園、ネオパーク、子どもの国、ジャングリアを巡る“小さな沖縄ツアー”は、笑いと驚き、そして発見の連続でした。

海洋博公園では、巨大なジンベエザメやイルカのショーにお二人は目をキラキラ。「海のないモンゴルでは見られない世界だね」と感動しながら、日本とモンゴルの自然の違いについて楽しく語り合いました。ネオパークでは、間近で出会う鳥たちにびっくりしつつ、写真を連写して童心に返るひと幕もありました。

子どもの国では、会場に流れる HAN-KUN の音楽に合わせて自然と手拍子。「音楽は国境フリーだね」と笑い合い、言葉を超えて心が通い合う、温かい瞬間となりました。





じやんぐりあでは、乗り物に乗れない代わりに“社会見学モード”に切り替え。施設構造やバリアフリー、動線などを観察しながら、「楽しさ」と「学び」を同時にゲットできる体験になりました。

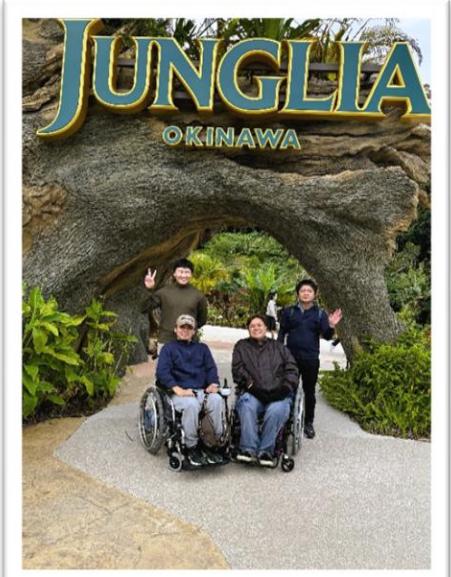
さらに、お二人が本場のモンゴル料理をふるまって

おきなわりょうり こくさいこうりゅう でいなー  
くださり、沖縄料理との国際交流ディナーに。

期間中はお腹も心もずっと満たされた、幸せいっぱいのホームステイとなりました。

そして12月31日からは、CILイルカの大城さんへ温かくバトンタッチ。笑顔でつながるご縁に、改めて感謝の気持ちでいっぱいです。

M. A



## まな ささ げんば 学びを支える現場から

わたし しようと おこな くるま たいけん あいますくたいけん こうわ とく こうし  
私は、小学校で行われた車いす体験・アイマスク体験および講話の取り組みにおいて、講師の  
じよしゅ しゃきょう みんせいいいんかい かたたち とも さんか こじさい からだ うご  
助手として社協や民生委員会の方達と共に参加してきました。子どもたちが実際に体を動かし、  
かん かんが がくしゅう ば ささ やくわり にな とうじつ くるま そうさ かいじょ  
感じ、考えるこの学習の場を、そばで支える役割を担いました。当日は、車いすの操作や介助の  
ほじょ あいますくたいけんじ あんぜんかくにん おこな こ ひとり あんしん たいけん  
補助、アイマスク体験時の安全確認などを行ながら、子どもたち一人ひとりが安心して体験でき  
るよう心がけました。体験を通して、思うように動けない不安や、周囲の声かけや手助けの大切さ  
に気づく様子が多く見られました。講話の時間には、講師の話に真剣に耳を傾ける子どもたちの  
すがた いんしょうてき こま ひと み じぶん ひとば かんが はつげん ばめん たいけん はなし じぶん なに  
姿が印象的でした。「困っている人を見かけたらどうしたらいいか」「自分にできることは何か」といつ  
と たい じぶん ことば かんが はつげん ばめん たいけん はなし むす  
た問い合わせに対し、自分の言葉で考え、発言する場面もあり、体験と話がしっかりと結びついていること  
かん こんかい とく しう まな ひと ちが し そぞう かか  
を感じました。今回の取り組みは、障がいについて学ぶだけでなく、人との違いを知り、想像し、関  
かた かんが たいせつ きかい まな ささ いちいん げんば た わたし  
わり方を考える大切な機会となりました。その学びを支える一員として現場に立てたことは、私た  
おお いみ けいけん こんご まな ば がっこう ちいき なか ひろ  
ちにとっても大きな意味のある経験でした。今後も、こうした学びの場が学校や地域の中で広がつ  
しえんしや みな ちから あ  
ていくよう、支援者の皆さんと力を合わせながら  
とく かんが こ き せいちょう ささ かつどう りかい きょうりょく  
取り組んでいきたいと考えています。子どもたちの  
き せいかう ささ かつどう りかい ねが  
気づきや成長を支える活動へのご理解とご協力  
ひ つづ ねが  
を、引き続きよろしくお願ひいたします。

K.H



# しんねん ほうふ \*新年の抱負



きょうどう ささ まな すす  
協働 … 支え合い・学び合いながら進める (M.A)

けんこうきがん たいちょうかいふく む せいかつ との  
健康祈願!! 体調回復に向けて生活を整えます (M.H)

さけ きゅうかん び つく  
お酒をひかえ、休刊日を作る (Y.M)

かていえんまん むびょうそくさい こうつうあんぜん きんえんはんたい なるせひでゆき  
家庭円満 無病息災 交通安全 禁煙反対 (成瀬秀行)

たいちょう き がんば  
体調に気をつけて頑張る (S.K)

さくねん ついいん たいちょうかんり で き とし  
昨年は通院しつつも体調管理出来た年でした。

ことし じ こ かんり おこた がんば  
今年も自己管理を怠らず頑張ります! (S.H)

あんせんだいいいちまい ベーす がんば  
安全第一マイペースに頑張ります (M.T)

# しんねん ほうふ \* 新年の抱負



他人に向ける感情よりも、冷静に

自分の心と向き合うことを大切にする一年にする！(Y.H)

体調管理に気をつけます(M.T)

介助者として事故がないよう当事者に確認を重ね、

安心して前向きに過ごせる支援を心がけます(H.H)

人を元気にできるような発言を心掛ける(K.H)

今年も一生懸命楽しいお仕事が出来る様に頑張ります(W.M)

体調に気をつけながら積極的に地域活動に参加する(H.M)

今年もいっぱい外に出かけておいしいものを食べたいです(R.T)

ことし うんどう  
今年はなるべく運動をする! (N.K)

ながねん ゆめ ろうにんあじ つあ  
長年の夢であるGT(ロウニンアジ)を釣り上げること。  
うみ じぶん む あ ちようせん  
海と自分に向き合いながら挑戦し、  
さいこう いっしゅん い  
最高の一瞬をつかみに行きます(R.H)

## 北部自立生活センター 希輝々の所在地案内

ゆうびんばんごう おきなわけん な こ し おおみなみ  
〒 905-0015 沖縄県名護市大南4-8-32(1階)  
でんわ ふあっくす  
TEL/FAX 0980-54-1559  
いー めーる  
E-mail kirara20030501@yahoo.co.jp

CIL希輝々では、正会員及び賛助会員の積極的な参加を募っています。  
当会活動のさらなる行動範囲を広げるためにも、ぜひとも当会の趣旨にご  
賛同いただき、ご協力をお願ひいたします。

正会員 新規会員 入会金2,000円(入会時のみ) + 年会費3,000円  
= 計5,000円  
既会員 3,000円(年会費のみ)  
個人 一口5,000円  
団体 大口10,000円

寄付金は隨時受け付けております。

皆様の温かいお志とご協力をお願ひいたします。

●振込先 沖縄海邦銀行 名護支店 店番 060(普通預金) 0621092

●名義 北部自立生活センター希輝々

